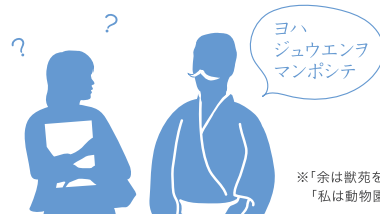


# 森鷗外と話ができる？ /

## 日本語の歴史を知るおもしろさ



※「余は獣苑を漫步して」= 「私は動物園を散歩して」の意。

日本語学は日本語を観察し、分析する学です。しかしその日本語は現在の日本語だけではありません。奈良時代の日本語、室町時代の日本語、明治時代の日本語、どれもみな「日本語」です。私たちは現代の日本語は自由に使いこなしています。しかし、過去の日本語について考えるためには、客観的な観察ができること、観察結果を論理的にくみ取っていくこと、など、いろいろなことが必要になります。それも日本語学の学びに含まれていると思います。過去の文献をよみとくためには、くずし字がよめることも必要になります。日本語の歴史を知るおもしろさを実感してください。



今野 真二 教授

●こんの・しんじ

1958年神奈川県生まれ。1986年早稲田大学大学院博士課程後期退学。専門は日本語学。主な著書に『仮名表記論攷』(清文堂出版、第30回金田一京助博士記念賞受賞)、『振仮名の歴史』『百年前の日本語一書きことばが揺れた時代一』『漢字からみた日本語の歴史』他、多数。



### 教えて今野先生!

ことばのルーツを辿る

日本語学

日本語学は何を学ぶの?

#### 『坊っちゃん』の自筆原稿から読み解く日本語学

夏目漱石の『坊っちゃん』の自筆原稿では、促音が「っ」で書かれています。その一方で、拗音は普通の大きさの「や」で書かれており、明治38年頃には拗音を小さき「ゃ」で書くことがまだ一般化していなかったことがわかります。また、原稿用紙の1行の先頭のマスに読点「、」が書かれている箇所が多数あり、自筆原稿を観察することによって、現在の日本語の「感覚」とは違うところが少なからずあったことがわかります。

#### くずし字マイスターを目指してみませんか?

くずし字は身近にあるものではありませんが、読めたいと思った人は少なくないことでしょう。そんなくずし字が半年で確実に読めるようになります。何も準備はいりません。楽しく取り組むこと、それが読めるようになる秘訣です。あなたも他の人にな「技術」身につけてみませんか。美術館や博物館での楽しさも倍増です!



#### 辞書の歴史を探る

辞書といえば、見出しが50音順に並んでいて、語義を調べるもの、と思いませんか。そんな私たちの辞書ができたのは、明治20年頃です。それまでの辞書は見出しがいろは順に並んでいて、ことばの意味は書いてない辞書がほとんどでした。では辞書で何を調べていたのか? あなたの辞書の概念が覆されるかもしれません。



#### ひとこと解説

言語を動かしているみえない「ルール」を探っていくことは推理小説のようなおもしろさがあります。みなさんもそのおもしろさを実感してください。

今野先生って  
どんな先生?

◆ミッフィーが大好き ◆優しい、たまに天然 ◆今野先生=辞書 ◆研究室の引っ越しをお手伝いした際、ミッフィーが入ったダンボール箱が2、3箱あってビックリ! ◆レポートや卒業論文のアドバイスがとても丁寧。失敗してもその失敗をどう次に活かすかが大切だということをおっしゃっていて、そのことを念頭に置きながらレポートを作成したら、上手に書くことができました!! ◆気になる現象(日本語学的な)が起きたら徹底的に調べる。 ◆授業が面白く、毎週楽しみ!

[回答:今野先生ゼミナール生]